

□5月18日説教(隅野徹牧師)短縮版  
「たとえ罪をおかしても」(Iヨハネ2:1~6)

1節前半には「罪を犯さなくなるため」という目標、目的のようなものがでていますが、人間がこの地上にいる間「何も罪を犯さない完全な人間になるのは無理」です。聖書が教えるのは、わたしたちがすこしずつ「キリストに似た者に変えられる」ということですが、この部分にはそれが出てきていると理解します。そして1節後半から「たとえ罪を犯しても」、という言葉の先頭に教えがなされますが、

私の解釈を紹介させてください。

「たとえ罪を犯しても、あなたのために罪の身代わりとなって下さった方がおられることを思い出すように。痛みを負ってあなたを罪から救い出して下さった、弁護者であり、正しいお方であるイエス・キリストによってあなたは生かされているのだ。だから、そのキリストに似た者にあなた自身変えていただけるようにと、全知全能の神に祈りなさい。」

ヨハネによる福音書8章の「姦淫の罪で捕らえられた女性をイエスが赦される話」を思い浮かべます。彼女を処刑しようとしていた人々が去り、イエスが「わたしもあなたを罪に定めない」と言われたあとで「これからは、もう罪を犯してはならない」と言われます。イエスは、姦淫の罪を犯した女性が、その直後から「罪を全く犯さない、完全無欠な人間になってほしい」と願われているのではないことをご理解いただけると思います。彼女に期待されたことは、ヨハネの時代に「間違った教えに揺れていた教会員一人ひとりに期待されたこと」とおなじです。そして、強欲がうずまく現代に生きる私たち一人ひとり、一つ一つの教会に期待されていることと同じだと理解します。わたしたちも、「イエス・キリストによって罪赦された恵み」を忘れず、そのイエスに似た者に少しでも変えられるように、祈り求めてまいりましょう。わたしたちが犯す罪がすぐになくなるわけではありません。しかし、教会の歩みが「大きく主のみ旨から外れる」ということから守られると信じています。(終)